

## 職員による自己評価

**A業務改善**

- ・目標設定の参画と共有のシステムが課題。
- ・職員体制の都合で外部研修への参加が課題。

**B適切な支援の提供**

- ・利用者への支援は充実しているが、職員間での振り返りや検証をする時間を確保することが難しい。
- ・活動プログラムのバリエーションが課題。

**C関係機関との連携**

- ・関係機関との連絡体制は確立しており、保育所等は職員間での連携も充実してきた。医療機関に関しては書面での情報共有が主である。

**D保護者への説明責任等**

- ・保護者への説明については丁寧に行えているが、保護者間の支援に関してはその機会の確保や介入が不十分である。

**E非常時等の対応**

- ・マニュアルの整備と周知はできており、定期的にはヒヤリハット事案を職員間で共有している。
- ・避難訓練は毎月実施しているが、さらに実践的な訓練の実施が必要である。

## 保護者による評価

**A適切な支援の提供**

- ・限られた時間の中で子どもに合わせて支援をしてもらっている。
- ・同じプログラムが繰り返されている。

**B保護者への説明等**

- ・個別支援計画や保護者との対話の中で丁寧に子どものことを伝えてもらっている。
- ・保護者同士で交流する機会が少ない。

**C非常時等の対応**

- ・避難訓練は定期的実施されており、非常時の対応の説明はされている。
- ・各種対応マニュアルについて細かくは周知されていない。

**D満足度**

- ・多くの方はセンターの支援には満足されている。
- ・定員の関係上、通園の利用を希望される方全員の受け入れができないことや、通園バスの利用がすべての方に提供できないことは、引き続き大きな課題となっている。

## 通園課内での分析

**【共通点】**

- ・お子さんの支援について丁寧に考え、実施されていることは利用者の方とも共有することができた。
- ・同じようなプログラムでバリエーションや展開に課題があるという共通の意見があった。
- ・保護者同士の交流や職員と保護者との接点や介入の機会は共通して少ないと感じていた。

**【相違点】**

- ・緊急時や感染症などの各種マニュアルについては職員間では周知されているが、保護者にはその存在や内容が限られた範囲でしか伝わっていない。

**【その他】**

- ・ここ何年も親子通園、単独通園とも通園利用希望者全員にサービス提供ができない状態が続いている。根本的な解決策が必要である。

## 分析・検討してみて…

### 通園課の強み

- ・お子さんに応じた具体的な支援が行われており、保護者の方への説明も丁寧にできています。
- ・緊急時や感染症対策に関するマニュアルや虐待、身体拘束にかかわる対応指針などは整備されており、職員間の周知や研修なども実施されている。
- ・巡回支援を開始したことで、より地域の関連機関との連携が充実してきた。

### 通園課の改善点

- ・療育プログラムのバリエーションやお子さんに応じた展開方法など、さらに広げていく必要がある。
- ・避難訓練などでは、想定別に文書等で利用者に伝える工夫も必要。
- ・保護者同士の交流の確保などは引き続き課題が残っている。
- ・利用希望者に応じた規模の確保や安定した職員の確保など、運営の基盤を改めて見直し改善していく必要がある。

### 通園課の改善への取り組み

- ・療育プログラムに関する研修やスーパーバイズを実施する。また、職員同士の情報交換を定期的に行う機会を設ける。
- ・利用者用に緊急避難マニュアルなどを作成し配布する。
- ・父母の会などへの職員の参加や、意見交換などを定期的に行う。
- ・引き続き、利用者のニーズに応えられるサービス量を確保するための体制整備の努力を行う。

### ～自己評価を行っての通園課としての感想など～

今回も多くの方に、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度も利用者の方々からは高い評価をいただき大変感謝しております。ただし、年々通園のご利用を希望される方のニーズに応えられなくなっていることが大変心苦しく、皆様には大変申し訳なく感じております。こうした状況を改善するため、今後も行政や関係機関とともに、当センターの体制整備に取り組んでまいります。

これからも、皆様から様々なご意見をお聞かせいただき、より満足していただけるよう一層の努力と改善を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(事業所名)

横浜市東部地域療育センター 通園課

児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター

担当者 園長 中尾 健太郎